

紙面から

教育随想

「全寮制の農業大学校」

愛知県立農業大学校長

内山 公男 氏

この人に聞く

盲人ガイド「ひとみ会」会長

石井富美子 氏

特集

「生活科 その後」

六年目を迎えた生活科

師弟同行

後藤 彬・桑木富士子

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

農繁期の一斉下校



8 月号

平成9年8月1日

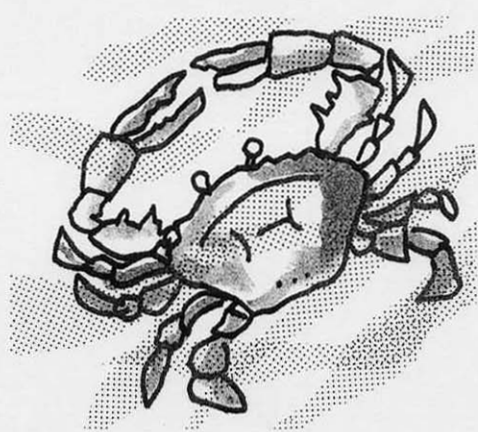
発行／編集

岡崎市教育委員会



(郷土室の道具にかかわる子 — 男川小)

追進農場から追進営農大学校に名称が変わり、昭和五十九年から「愛知県立農業大学校」となって十三年を経過しました。時代の移り変わりとともに教育内容は大きく変わっています。全寮制という仕組みは今も続いています。「いまどき、何でも全寮制ですか」という声は時々耳にします。(但し、全寮制といっても



本校の場合は金曜日の授業終了後から日曜日の夜までは帰宅させてはいるのですが。家では個室を与えられておいしい食事があるのに、寮では一室二名〜三名での生活ですから相手に気を遣わなければならない、寮の食事は自分の好きなものが出るとは限らない、ということと正直なところ学生間でも決して評判は良く

ありません。慣れるまでにかなりの精神的な負担があることは確かです。しかし、入学当初は金曜日には真つ直ぐ家へ帰っていた者が次第に家よりも寮の方が気楽でいいという気分になり、卒業時には友達がたくさんできて寮生活は良かったということになるのです。

昨今、対人関係が苦手な若者が増

—教育随想—

全寮制の農業大学校



愛知県立農業大学校長

内山 公男

えています。私は、ここでの共同生活の経験は学生に社会性を持たせる上で大きく役立っていると思えます。(本人がわかるのは卒業後ですがね。) 僅か二年間の修業年限ですが、入学当初と卒業時では人間的に大きく変わっていきます。しかし、全寮制というのは、先生方にとっては、学習指導の他に生活面の指

導もする必要が生じますし、交代で寮へ泊まっているのですから、心身に大きな負担なのです。ただ、卒業生から良い経験をしたと言われ、時には両親から感謝されると、先生方にとっては負担が大きい反面、苦勞の甲斐があったということでしょう。

とはいっても、時代の流れの中で全寮制を維持するには「個室」への移行は考えざるを得ないと思っています。他県の農業大学校でもとり入れるとこができています。但し、この場合、いかにして寮生活の意義を失わせないようにしていくかは今後の課題として残ります。

開校以来六十三年を経過し、六千名余の卒業生が各地域で活躍してきました。本県農業の発展を支えてきたのは本校の卒業生であると言っても過言ではありません。農業の果たす役割や重要性は再認識されています。先人が築いた基盤を引き継ぎ、地域のリーダーとして今後の食料難の時代に対処する上で、寮生活で培った友情と連帯感がバネになってくれる筈です。

(うちやま きみお)

保健指導の充実を

保健指導員

中根 美恵子

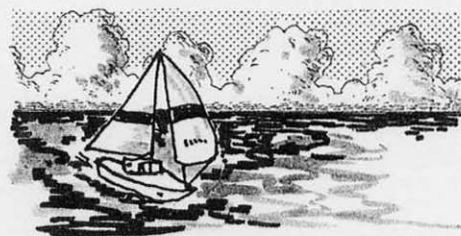


私たちを取り巻く環境の急激な変化に伴い、児童生徒が訴える心身の異常の中身も大きく変わってきた。そこで、学校保健の領域の中で、生涯を健康で過ごすための知識技能を習得する保健指導の充実が叫ばれるようになった。さらに中央教育審議会の答申で「生きる力」の大切さが指摘され、「心身の健康を増進するための自己管理能力を身につけることが教育現場で重要である」と誰にでも認められるようになった。

A先生の小学校二年生の指導は楽しく、印象に残っている。世間で騒がれた〇一五七に目を向け、この機会に学級の子供たちに手洗いの習慣を身につけさせたいと考えた。導入は、ペープサートで「なぜ手を洗うのか」を物語風に話した。ここで子供の目は、輝く。次に、でんぷん

ふるさとシリーズ

この人に聞く



盲人ガイド

石井富美子 氏

平成元年から「ひとみ会」の会長を務めてみえる石井さんを訪ねた。

「ひとみ会」とは、視覚障害者の自立を援助する目的で、外出時の手引き（ガイドヘルプ）を行うボランティア団体である。会の発足は、昭和五十八年四月。石井さんは同年六月に入会し、現在に至っているそうだ。

「夫が昭和十八年に戦死し、それ以後、親や兄弟など多くの方々の助けを借りて生きてきました。私も社会福祉でお返ししたいと考え、入会したのです。」

「ガイドヘルパーをしていて、目の

不自由な方に教えられることが多いですね。」

と話される石井さん。

「一緒に歩いていて、今通った風景を聞かれることがあります。覚えていないのです。目が見えていても、見ているようで見ていないのですね。もつとしっかり物を見なければ、と反省させられます。」

「目の不自由な方でも、ペン習字やお花、編み物、テニス、卓球などいろいろな趣味に挑戦されています。目の見える私だってがんばらなければ、と逆に励まされることが多いですよ。」

笑みをたたえながら丁寧に話される様子から、石井さんの上品なお人柄がうかがえる。

現在、会員は四十五名、ガイドヘルパーを必要とされている方は、市内に二十名ほどみえるそうだ。ガイドヘルパーの魅力について、こう話された。

「楽しみがあるから続けられるのですね。自分の知らない場所へ行つて一緒に楽しめます。それに、目的の地まで行って帰って来られたという達成感や、この人にとって役に立てたかな、という満足感もあります。ありがとうございます。」

の感謝の一言をかけていただけると、うれしいですね。」

石井さんの言葉の端々から、ともに生きることの喜びや、ボランティアをさせていただいているという謙虚な心が伝わってくる。

「愛知ガイドネットワーク」という県レベルでのネットワークが今年三月に発足しました。また、「全国視覚障害者外出支援連絡会」というネットワークもあります。今は市内だけでなく、多くの方々とは手を結び、視覚障害者の支援を広めていきたいですね。」

氏 名 いしい ふみこ

生年月日 大正十二年十一月二十日

住 所 舞木町小井沢七上二十四



糊の実験をグループで実習。手のどの部分の汚れが落ちにくいかを目で確かめることができた。傍観者は一人もいない。気づいたことを発表する場面では、我先にと挙手する元気な子供の姿や伝えた喜びの満足顔が見られた。出された意見が誰にもわかるようにと、手の模型に汚れシールを貼っていく工夫も見られた。そして、最後は替え歌で手を洗った。何気ない手法であるが、手を洗うコツと時間を「からだでわかる」という保健指導のめざすものがここで達成された。周到な準備に表れているように、この指導を通しての教師の子供への願いがよく伝わってきた。そのため、どの子供にも意欲が継続していたと、みなさんにも推測できるのでは。

保健指導の課題は、「認識」が「実践」に結びつくことだと思う。当たり前の生活習慣がくずれかけている今、「なぜ」という疑問に答えるように科学的根拠に基づいて、系統的に指導することが求められている。

【推薦する専門書】

「授業書」方式による保健の学習

大修館書店

『総合的学習への提言 第四巻 健康教育とライフスキル学習』明治図書

生活科その後



▲「みつっこながせこの道」クイズ大会 <矢北小・1年>

小学校一・二年生を対象に、平成四年度より完全実施されてきた生活科も、本年度で六年目を迎えた。

昨年度までの各小学校の様子を見ると、目標となる「子供自身が具体的な活動や体験を通して学び取る」ことに重点を置いた実践が積み重ねられてきている。生活科の掲げる目標は、スタート時と変わっていないものの、授業そのものの形は、教科書中心の生活科から、地域の特性を生かした特色ある生活科へと少しずつ変化している。単元を工夫し、学校独自の年間計画を作成して取り組んでいる学校も増えてきている。地域の「もの・人・こと」とかかわりながら、生き生きと楽しく活動する子供の姿が見られるようになってきた。

六年目を迎えた生活科



▲「つくろう あそぼう」
<細川小・1年>

▼収穫のおみこし
<愛宕小・2年>



▲「1年生をむかえよう」
<井田小・1年>



▲「バスにのって南公園へ行こう」<男川小・2年>



▲「虫になろう」<梅園小・1年>



▲秋まつりのお店やさん <北野小・2年>



▲「生きものと友だちになろう」<六南小・2年>



▲ポケモンまつり <連尺小・2年>

▼「生きものパンザイ」<六北小・2年>



▼「風と友だち」<広幡小・2年>



生活科指導員の光岡先生は、教科の特性について、次のように語られた。

「子供の活動から一人一人の良さが見えるようになってきましたね。生活科は、子供の思いや願いを大切にしながら、子供たちの学ぶ意欲を高め、「学びの自立」をめざす教科でもあります。」

生活科の究極の目標は、「自立の基礎を養う」ことにある。子供が自分で対象とかかわりながら問題を見つけ、それを自分なりに解決していく「学びの自立の基礎」を養うことも生活科の大切なねらいである。

今回、この特集にあたって、多数の学校より授業の記録写真を提供していただくことができた。これらの子供の姿からも、さまざまな力が培われていく様子をかいま見ることができる。

ふれあい

灰皿

北中学校

稲次 義明

「先生、これ、やるわ。」
と、彼から渡された灰皿。

それは、手作りの陶器。彼らしく、無骨ながらも、器用に形と色が工夫されていた。

彼は二年前、私が初めて担任した生徒であった。

何度指導し、裏切られたことであろうか。事件を起こし、指導した後、自宅へ送った。すると母親は「死んでしまえ」と泣き叫びながら彼を叩き続けた。彼は泣きながら床に転がり、耐えていた。やがて彼は家を飛び出した。

数日後、発見された彼の体は、垢にまみれて衰弱していた。そして一言、「家にも学校にも戻りたくない」と言った。子供と親、そして教師。この大切なつながりは、もはやばらばらであった。心に響く

指導のできない自分が情けなかった。結局、彼は施設に行くことになった。

施設を訪問すると、彼はとても生き生きとしていた。私は複雑な心境であった。

そんな彼が、施設で作ってくれたのが灰皿である。私にありがとうの言葉と共に、「必ず戻って来い。中学校でおまえの卒業を祝いたい。」と彼に伝えた。

卒業式の日、体育館に立つ彼の姿を見て、私は涙が止まらなかった。

今もその灰皿は私の机の上にある。それは、私の教師としての戒めでもあり、心の支えでもある。



師弟同行

心に残る詩

竜美丘小学校

桑木富士子

私の机の引き出しには、今も中学三年の時の生徒手帳が入っています。そこには、当時、先生に教えていただいた詩のいくつか、緊張した文字で書き込まれています。

その中で、特に深く心に刻み込まれているのは、武者小路実篤の「一個の人間」です。この詩を読むと、真剣な眼差しで、言葉の一つ一つを噛み締めるように朗読されていた先生の姿が浮かんできます。

「他人をいびつにしたりしない

そのかわり、自分もいびつにされない

一個の人間でありたい」
私の心に残る一節です。

振り返ってみますと、落ち



着きのない生徒で先生にご迷惑ばかりおかけしていた私でしたが、そうした詩によって歩むべき道を示唆していただいたように思います。

先生は、生徒のあるがままを受け入れ、考えさせる一言を投げかけてくださいました。そして、自分を見失わない大切さを教えてくださいました。先生のように、心に残る一言が言える教師になりたいと思います。

子どもの待つ一言を

前大門小学校長

後藤 彬

早速、葵中時代の卒業アルバムの一冊をさがす。確かに、「一個の人間」は、私の自筆で残っています。その詩を授業で、生徒手帳に筆写させた経緯は定かではありません。あなたに道徳の時間のこと

と教えられ、当時は思い起こします。つながって、今、先輩のひとつの箴言と響き合うものを感じています。

「教育とは人の生き方を学ばせることである。教師の人間が出る授業ほど怖いものはない。しかし、またこれほど楽しいものはない」

こう書き付けてみて、納得できるものがあります。

いつか、あなたが校務主任を兼ねて学級担任が持てるようになった時のことを、話してくれたことがあります。担任があるからいい。楽しいと。「学んで厭はず」子どもと共にある真剣さは、さすがあなたらしいと思つたものです。「忘れずにやっつけているね」「思い切つてやってみな」こんな子どもへの一言を持つていたい。殊更に構えることはない。構え過ぎるとゆとりを失います。子どもへの取りつくろいも、言い訳もいけません。ついつい先生口調になつてしまいます。(ごめん)

その手帳を見せてくれるという、先月会えた時の約束を楽しみにしています。

お知らせ



◆平成九・十年度文部省モデル校指定事業

・環境のための地球学習観測プログラムモデル校
甲山中学校

・環境データ観測・活用事業モデル校
新香山中学校

◆平成九年度環境月間県民のつどい

・環境保全活動功労
新香山中学校生徒会

・環境保全ポスター入賞
一席 竜海中二年 川上綾
三席 常磐南小四年 細野慎一

竜海中二年 浅井満祐子

◆第二十三回交通安全こども自転車岡崎地区大会

優 勝 大門小学校 A
二 位 竜美丘小学校 A
三 位 梅園小学校 A
四 位 連尺小学校 A

●第41回岡崎市中学校総合体育大会

水泳競技の記録

★新記録

性	種 目	氏 名	校 名	記 録
男	50m自由形	村松 秀都	南	28"1
	100m自由形	今野 太郎	南	1'01"4
	200m自由形	寺田 征矩	城北	2'13"5
	100m平泳ぎ	長坂 幸俊	南	1'16"5
	100m背泳ぎ	加藤 嵩之	矢作北	1'10"6
	100mバタフライ	鳥居 康	城北	1'04"0
子	200m個人メドレー	横野 功児	矢作北	2'35"2
	400mリレー	村松・佐々木・長坂・今野	南	4'15"5
	400mメドレー	今野・長坂・河田・村松	南	4'40"5
	男子総合	1 南	2 矢作北	3 北
女	50m自由形	米津 実里	矢作	30"4
	100m自由形	佐藤 裕美	葵	1'07"2
	200m自由形	藤 墳 ゆかり	竜海	2'21"8
	100m平泳ぎ	杉山 麻紀	城北	1'23"7
	100m背泳ぎ	黒柳 瑛子	城北	1'15"9
	100mバタフライ	石川 紋	矢作北	★1'08"5
	200m個人メドレー	前沼 恵理香	美川	2'39"2
子	400mリレー	佐藤・杉山・山本・大塚	葵	4'29"3
	400mメドレー	杉山・中山・山本・佐藤	葵	5'03"6
女子総合	1 葵	2 竜海	3 城北	

◆平成九年度緑化推進・動物愛護児童生徒作品展

・描画・ポスターの部
市長賞
上地小二年 川合 匠
羽根小五年 古島 あい
南 中二年 柴田 真希

・習字の部
市長賞

上地小三年 小林 優一
恵田小四年 市川 久乃
常磐中一年 池田真依子

◆第十一回わんぱく相撲葵場所優勝者

女子低学年 根石 山本 梓
女子高学年 大樹寺 稲垣春菜

・女子

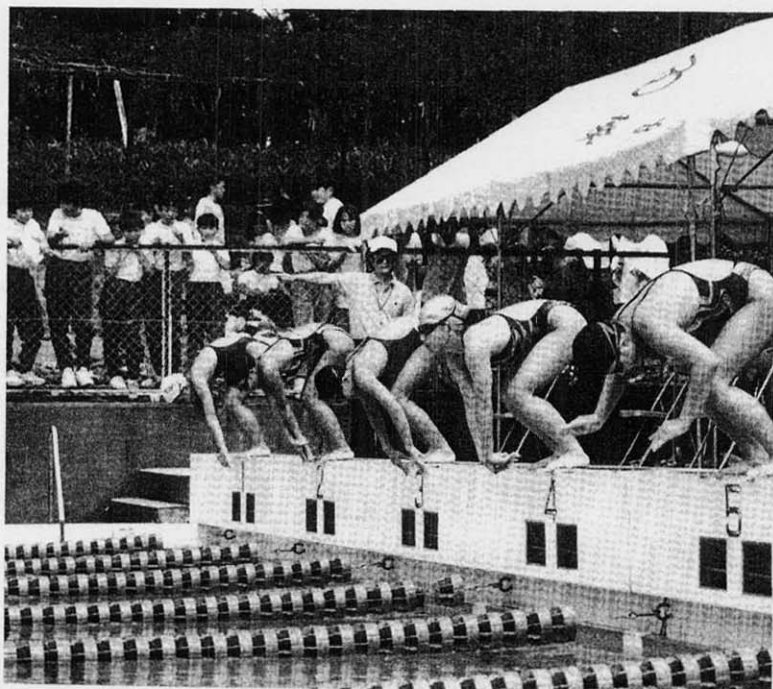
五位 山中
二位 常磐クラブ
三位 六南クラブ
三位 六美JVC
(以上県大会出場)

◆ライオンカップ第十七回全日本小学生バレーボール大会西三河予選

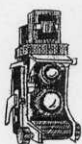
男子一年 山中真野 匠
男子二年 美川 青山貴昭
男子三年 美合 加藤 瞳
男子四年 附 属 野村泰資
男子五年 附 属 河内洋平
男子六年 附 属 森下弘康

●平成九年度夏期実技講習会

教科・領域	期 日	会 場	人数
国語(書写)	7. 31	東公園	40
社 会	8. 1	中部電力渥美火力発電所	40
算数・数学	7. 31	六ツ美市民センター	50
理 科	8. 1	緑丘小学校・緑丘市民ホーム	55
生 活 科	7. 31	大平市民センター	70
音 楽	8. 6	市民会館リハーサル室	50
図工・美術	8. 4	おかざき世界子ども美術博物館	40
家庭科(小)	8. 1	奥殿小学校	40
技術・家庭科(中)	7. 31	六ツ美北中学校	50
英 語	8. 1	六ツ美市民センター	80
特殊教育	7. 31	竜海中学校	40
視 聴 覚	7. 31	岡崎市情報ネットワークセンター	50
特別活動(野外活動)	7. 29~31	岡崎市少年自然の家	60
情報教育	7. 31, 8. 1	新香山中学校	40
学校図書館教育	8. 1	愛知県青年の家	80
学校保健	8. 4	矢作東小学校	50



▲中学校総合体育大会 水泳競技 — 葵中プール



フォト・ヒストリー 岡崎の教育

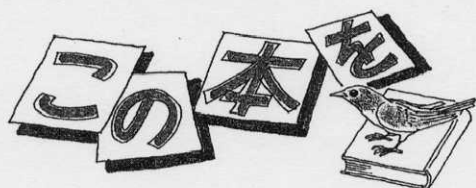
農繁期の一斉下校

・表紙写真 男 川 小 杉 浦 修
 ・カット 六ツ美中 太 田 幹 雄

昭和三十年頃、農繁期には農作業の手伝いのために授業を半日で終えていた。
 農家の子供たちは、家の手伝いをした。一方、非農家の子供たちは、農家の留守を守るために防犯隊を組織し、のぼりを持って町内を巡視した。



写真提供 矢西小



- * 奇跡の人 真保 裕一 ¥1700
角川書店
- * 奇貨居くべし 宮城谷昌光 ¥1500
中央公論社
- * 香港回帰 中嶋 嶺雄 ¥760
中公新書
- * 「一流になる」ために何をすべきか 森 祇晶 ¥1500
講談社

- * 父性の復権 林 道義 ¥720
中公新書

父親は何をなすべきか、父親が父親であるために持っていなければならない性質とは何かという父性の条件を探る本である。新書版で手軽に読めるが、内容はなかなか読みごたえがある。
 父性行動は、どのようにして生まれたかから始まり、家族のベストの姿は、父親が中心にいて、父親の一番の仕事は、機会あるごとに、自分の考えを子に語ることだと説いている。家族の姿を考える機会を与えられる一冊である。

思いやりの心が福祉活動を支える。盲人ガイドを行ってみえる石井さんの、さりげない言葉が心に響く。
 「相手のために役に立てたかな、という満足感がいいですね。」
 生徒の気持ちを感じとれる教師であるか、自問自答してみる。



「朝顔につるべ取られてもらい水」（千代女）鮮やかな緑色の葉と淡い花色は、真夏に涼を運ぶ。この朝顔に、ランドセルを背負い腰をかがめて語りかけるように世話をしていた一年生。朝顔の成長とともに育った彼らも、今は初めての夏休みを満喫している。

代かき、田植え、稲刈りと多くの作業を人の力に頼っていた頃、子供たちは貴重な労働力であった。家事を手伝うことが当然の時代、労働体験を通して「生きる力」を培っていったのであろう。
 今、再び体験活動が求められている。

スタートして六年目を迎えた生活科。送られてきた写真に、地域から学ぶ子供の姿を見ることができた。生き生きとした子供の表情こそ昔と変わっていないが、五感を生かす力や友達とのかかわり方等、様々な力がこの五年間で培われていることは間違いない。